



プレスリリース No. 10/287

即時解禁

2010年7月12日

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、 アジアが世界経済で先導的な役割を担う時代の到来を指摘

国際通貨基金（IMF）のドミニク・ストロスカーン専務理事は、韓国・大田市でのアジア 21 ハイレベル会議での開会の辞の中で、アジアはこの度の世界金融危機から脱却する過程において、世界経済の原動力として浮上したと述べた。「アジアの時代が到来した……アジアの経済動向の重要性が今後も増していくことは疑う余地がない」

「私は、これまで 10 年に渡り行われてきたマクロ経済、金融、及び企業部門の改革が、アジア地域の耐性に大きく寄与したと考えている。この結果、アジアは当初、世界金融危機の大きな打撃を受けたにもかかわらず、速いペースで回復を遂げることができたのだ」。IMF は先週 2010 年の経済見通しを発表し、世界経済の成長見通しを 4.5%強とした一方で、アジア経済は 7.75%成長すると予測した。

また、同専務理事は、特に G20 の枠組みを通じた、世界レベルでの経済政策協調におけるアジアの役割の重要性が増していると強調した。アジア 6 カ国が参加している G20 の議長国を今年韓国がつとめている。ストロスカーン氏は「世界におけるアジア経済の重要性が今後も増すにつれ、他国の経済パフォーマンスとアジアの関連性も高まる」と述べた。

さらに同氏は、世界金融危機への対応を通し、国際協調がもたらしうる利益が明確となったと述べた。IMF の直近の分析によると、世界レベルでの政策協調を一層推進することにより、今後 5 年間でアジアの GDP は約 2,500 億ドル上昇し、約 1,400 万の雇用が創出される可能性がある。

一方でストロスカーン氏は、アジアの力強い成長を強調しながらも、最近の欧州の混乱など下振れリスクが存在することから、アジアの政策当局者に対し、ショックがさらに起こる危険性もあるとして、引き続き警戒するよう呼びかけた。資本流入

の急激な回復、並びに景気過熱や信用・資産バブルに関連したリスクの最善の管理手法の策定などが今後の主な政策課題だといえる。

より長期的には、ストロスカーン氏が「アジアの成長の第二のエンジン」と呼ぶ、アジアの国内投資及び需要の拡大にむけた最善の手法の策定が政策課題だといえる。これまで、アジア地域の成長は主に輸出に支えられてきたが、特に欧州及び米国など、アジアの主要な貿易相手が低成長率時代に突入しており、且つそれが長引く可能性もあることから、アジアの内需の育成がこれまで以上に重要となっている。ストロスカーン専務理事は、成長の第二のエンジンの育成及び維持に必要な改革の多くが、既にアジア地域全体で実施されていることを評価した。予備的貯蓄の必要性を減らすことで民間消費を拡大するソーシャル・セーフティ・ネットの強化、民間投資を促進するインフラの改善、並びに為替相場の柔軟性の向上などが代表的なものだといえる。

ストロスカーン氏は、世界経済で高まり続けるアジアの役割を反映し、IMFをはじめとする国際金融アーキテクチャーにおけるアジアの発言権や代表権を拡大しなければならないと述べた。IMFにおけるアジアの議決権を拡大した2008年の改革を基に、「我々は、今年11月のソウルでのG20サミットを期限として、改革の第二段階を実行している。これにより、IMFにおけるアジアの代表権が、世界でのアジアの経済規模に一層見合ったものとなるだろう」と同氏は述べた。

さらに同氏は、IMFの今後のアジア支援の実効性の向上にむけ取り組みを進めていることを明らかにし、特に、IMFの経済及び金融リスクの分析の改善、国際政策協調の促進、並びに国際金融のセーフティネットの強化、といった3項目においてIMFは貢献することができると述べた。

最後にストロスカーン氏は「世界各国は、アジアがどのように現在の成長を成し遂げ、また成功裏にグローバル化を実現したのかを理解したいと考えている。アジアが成し遂げた多くの成功から教訓を得ることが、同会議の重要な目的である」と述べた。